

Around

元気を支える

「楽しく」続けて介護を予防

♪しあわせは歩いてこないだから歩いてゆくんだね

水前寺清子さんの「三百六十五歩のマーチ」の軽快なリズムに合わせ、笑顔で足踏みするおばあちゃんたち。長崎県西彼杵半島の西方、角力灘に浮かぶ西海市・大島のスナックでは毎週火曜、昼間からカラオケのメロディーや歌声が響く。

□

の体操」や、曲に合わせて体を動かす「歌体操」を行い、楽しいカラオケタイムは1時間半程度続くこともある。経済産業省の実証事業で行われ、参加費は飲み物付きで5000円。近くの五藤月子さん(81)は「みんなと話しながら体を動かすのは楽しい」と笑う。

◆地域活性化の狙いも

くまもと健康支援研究所は、高齢者の介護予防に力を入れる。体操後にシヨッピンゲンターで買い物をする「買い物リハビリ倶楽部」や、温泉入浴を楽しむ「元気が出る学校」などユニークなサービスで、熊本、大分、福岡3県の27市町村と契約し自治体

の事業として実施している。「高齢者が元気になれば介護費は抑制される。買い物などでお金を使えば地域の活性化にもなる」。松尾洋社長(41)は力を込める。



スナックでカラオケの曲に合わせて体を動かす参加者(長崎県西海市で)

経産省の事業として行っているのは、長崎県内1市2町でのスナックリハビリ倶楽部や買い物リハビリ倶楽部など。同県は要介護認定率(2013年度末現在)が22・7%と全国一高く、介護予防のニーズがあるとして実施場所を選んだ。

実証事業は来年2月までだが、その後も希望者は自費で参加できるようにする予定。「今のサービスを気に入ってもらえば継続してくれる人はいるはず」と松尾社長。実際、熊本県などでは昨年度、自治体の事業終了後も3割の人が自費で参加したという。

◆自治体も注目

政府は消費増税で社会保障

の財源確保を見込むが、10年後に21兆円に上ると推計される介護費用の抑制は待ったなしの課題だ。

介護保険制度改正で、要介護度の低い人へのサービスの一部が2017年度までに市町村の「介護予防・日常生活支援総合事業」に移されることになった。地域の特性に応じてサービスマネジメントを設け、費用の抑制も期待されるが、地域格差が生じる懸念もある。

西海市は将来の総合事業への移行を見据え、スナックリハビリ倶楽部などを来年度から市の事業として実施することを検討している。市の担当者「現状では高齢者の数に対して介護予防サービスの選択肢が少ない。民間の知恵を借りてサービスマネジメントを充実させたい」と語る。

(森洋二、西村康英)